Family list 32 family members for: JP7183540 Oenved from 20 applications

1 A method for menufacturing a semiconductor device

Inventor: OHTANI HISASHI (JP); MIYANAGA Applicant: SEMICONDUCTOR ENERGY LAB (1P) AKIHARU (JP); (+1)

EC: H01L21/77T: H01L21/200: (+5) IPC: H01L21/20; H01L21/336; H01L21/77 (+9 Publication info: CN1054943C C - 2000-07-26

CN1110004 A - 1995-10-11

2 Method for menufecturing semiconductor device Inventor: OHTANI HISASHI (JP); MIYANAGA Applicant: SEMICONDUCTOR ENERGY LAB (3P)

AKTHARU (IP): (+1) EC: H01L21/77T; H01L21/200; (+5) IPC: H01L21/20; H01L21/336; H01L21/77 (+9 Publication Info: CN1143362C C - 2004-03-24

CN1238553 A - 1999-17-15

3 Semiconductor device Inventor: OHTANI HISASHI (JP): MIYANAGA

Applicant: SEMICONDUCTOR ENERGY LAB (1P) AKIHARU (IP): (+1) EC: H01L21/77T; H01L21/20D; (+5) IPC: H01L21/20; H01L21/336; H01L21/77 (+8 Publication Info: CN1149639C C - 2004-05-12

CN1223459 A - 1999-07-21

4 No title available Inventor: Applicant:

IPC: EC: Publication Info: DE69430097D D1 - 2002-04-18

5 Method of crystellizing e silicone layer end semiconductor devices

obtained by using the method. Inventor: OHTANI HISASHI (JP): MIYANAGA Applicant: SEMICONDUCTOR ENERGY LAB (3P) AKIHARU (JP): (+2)

EC: H01L21/77T; H01L21/20D; (+5) IPC: H01L21/20; H01L21/336; H01L21/77 (+9 Publication Info: DE69430097T T2 - 2002-10-31

6 Method of crystallizing e ellicone layer end semiconductor devices

obtained by using the method. Inventor: OHTANI HISASHI (JP): MIYANAGA Applicant: SEMICONDUCTOR ENERGY LAB (JP)

AKIHARU (JP); (+2) EC: H01L21/77T: H01L21/20D: (+5) IPC: H01L21/20; H01L21/336; H01L21/77 (+8

Publication info: FD0651431 A2 - 1995-05-03 EP0651431 A3 - 1995-06-07

EP0651431 B1 - 2002-03-13

7 Method of crystallizing a silicon leyer Inventor: OHTANI HISASHI (JP); MIYANAGA

Applicant: SEMICONDUCTOR ENERGY LAB (IP) AKIHARU (JP); (+2) EC: H01L21/20D: H01L21/336D2B: (+3) IPC: H01L21/20; H01L21/336; H01L29/786

Publication info: EP1158580 A2 - 2001-11-28

EP1158580 A3 - 2004-07-28 MANUFACTURE OF SEMICONDUCTOR DEVICE

Inventor: OTANI HISASHI; FUKUNAGA KENII; (+2) Applicant: SEMICONDUCTOR ENERGY LAB FC.

IPC: H01L21/20; G02F1/136; G02F1/1365 (+1 Publication Info: JP3193358B2 B2 - 2001-07-30

JP2000068204 A - 2000-03-03 MANUFACTURE OF SEMICONDUCTOR

Inventor: OTANI HISASHI: MIYANAGA SHOJI Applicant: SEMICONDUCTOR ENERGY LAB EC: IPC: c01833/02; H01L21/02; H01L21/20 (+13 Publication info: JP3431033B2 B2 - 2003-07-28

JP7130652 A - 1995-05-19

IPC: H01L21/20; H01L21/336; H01L21/77 (+1

Family list 32 family members for: JP7183540 Derived from 20 applications

16 Method for manufacturing a semiconductor device

EC: H01L21/77T; H01L21/20D; (+5)

Inventor: OHTANI HISASHI (JP); MIYANAGA Applicant: SEMICONDUCTOR ENERGY LAB (JP)
AKTHABII (JP): (+2)

EC: H01L21/77T; H01L21/20D; (+5) IPC: H01L21/20; H01L21/336; H01L21/77 (+8
Publication Info: US5923962 A - 1999-07-13

17 Active Matry Display

Inventor: OHTANI HISASHI (JP); MIYANAGA Applicant: SEMICONDUCTOR ENERGY LAB (US)
AKIHARU (JP): (+2)

Publication info: US6285042 B1 - 2001-09-04

18 Semiconductor thin film transistor with crystal orientation

Inventor: OHTANI HISASHI (IP); MIYANAGA Applicant: SEMICONDUCTOR ENERGY LAB (US)

AKHARU (IP): (+2)

EC: H01L21/77; H01L21/20D; (+5) IPC: H01L21/20; H01L21/336; H01L21/77 (+1
Publication info: US6335541 B1 - 2002-01-01

19 Method for manufacturing a semiconductor device

Inventor: OHTANI HISASHI (P); MIYAMAGA AKIHARU (P); (+2)
ECI: HOIL21/77; HOIL21/20D; (+6)
IPC: MOIL21/20; HOIL21/336; HOIL21/77 (+1

Publication Info: US6998639 B2 - 2006-02-14 US2002053670 A1 - 2002-05-09

Publication info: US2006131583 A1 - 2006-06-22

20 Method for manufacturing a semiconductor device
Inventor: ONTANI HISASHI (PP); MIYANAGA APPlicant: SEMICONDUCTOR ENERGY LAB (JP)
AKHARU (JP): (+2)

EC: H01L29/786E4C2: H01L21/336D28: (+1) IPC: H01L29/04: H01L29/02

Data supplied from the exp@cenet database - Worldwide

EC:

FC:

10 SEMICONDUCTOR DEVICE

Inventor: OTANI HISASHI: MIYANAGA SHOTI Applicant: SEMICONDUCTOR ENERGY LAB EC:

IPC: c01833/02: H01L21/20: H01L21/336 (+1

IPC: H01L21/20; H01L21/336; H01L29/786 (+

IPC: H01L21/20; H01L21/02; (IPC1-7):

Publication info: JP3431034B2 B2 - 2003-07-28 1P7135174 A - 1995-05-23

11 SEMICONDUCTOR DEVICE AND MANUFACTURE THEREOF

Inventor: OTANI HISASHI: FUKUNAGA KENJI: (+2) Applicant: SEMICONDUCTOR ENERGY LAB EC: IPC: H01L21/20; H01L21/02; H01L21/26 (+14 Publication info: JP3431041B2 B2 - 2003-07-28

JP7183540 A - 1995-07-21

12 METHOD FOR MANUFACTURING SEMICONDUCTOR DEVICE Inventor: OTANI HISASHI: FUKUNAGA KENJI: (+2) Applicant: SEMICONDUCTOR ENERGY LAB

Publication Info: JP3980298B2 B2 - 2007-09-26 JP2002110543 A - 2002-04-12

13 A SEMICONDUCTOR DEVICE

Applicant: SEMICONOUCTOR ENERGY LAB KK (JP)

Inventor: OHTANI HISASHI (JP): MIYANAGA AKIHARU (3P): (+2)

H01L21/20 Publication info: KR100273833B B1 - 2000-11-15

14 METHOD FOR MANUFACTURING SEMICONDUCTOR DEVICE

Inventor: OHTANI HISASHI; MIYANAGA AKIHARU; Applicant: SEMICONDUCTOR ENERGY LAB KK (+2)

EC: H01L21/77T: H01L21/200: (+5) IPC: H01L21/20; H01L21/336; H01L21/77 (+8 Publication info: KR100297315B B1 - 2001-05-21

15 Method for manufacturing a semiconductor device

Inventor: OHTANI HISASHI (JP): MIYANAGA Applicant: SEMICONQUCTOR ENERGY LAB (3P) AKIHARU (JP): (+2)

EC: H01L21/77T; H01L21/200; (+5) IPC: H01L21/20; H01L21/336; H01L21/77 (+8

Publication info: US5643826 A - 1997-07-01

Data supplied from the esp@cenet database - Worldwide

ā

Patent number: JP7183540

Publication dete: 1995-07-21
Inventor: OTANI HISASHI; FUKUNAGA KENJI; MIYANAGA SHOJI; CHIYOU

KOUYUU
Applicant: SEMICONDUCTOR ENERGY LAB

plicant: SEMICONDUCTOR ENERGY LAI

HO1121/20: HO1121/02: HO1121/06: HO1121/268; HO1121/338; HO1127/12: HO1129/78; HO1129/786; HO1121/02: HO1127/12; HO1129/66; HO1127/12: HO1129/786, HO1121/20; HO1121/368; HO1121/368; HO1121/388; HO1127/12

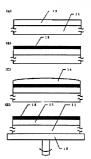
notização.

Application number: JP19940162705 19940620 Priority number(s): JP19940162705 19940620; JP19930307206 19931112

Report e deta error here

Abstract of JP7183540

PLIPPOSET To previously control a solidor which considerate the regularization of all signs fill he inherent concernation to a sit on the previous file as local file is a solidor file and the previous file as local file is a solidor file and the previous file and the analysis of the anal



Data supplied from the exp@cemet database - Worldwide

□ 公開特許公報 □ (19) 日本国特許庁 (JP)

(11)特許出斷公開番号

特開平7-183540 (43) 公第日 平成7年(1995) 7月21日

(51) Int. C1. " H011, 29/786

> 21/336 21/20

機別記号

FΙ

H01L 29/78 未満式 商式項の数25 FD (全16百)

311

(21) 出願番号

幹順平6-162705

8418-4¥ 9856-4¥

(22) 出顧日

平成6年(1994)6月20日

(31)優先権主張番号 特閣平5-307206 (32) 優先日 平 5 (1993) 11月12日 (33) 優先機士福岡 R本(1P)

21/26 (71)出版人 000153878 推式会計學講像工术ルギー研究所

神奈川県厚木市長谷398番地 (72) 発明者 大谷 久

神奈川県原木市長谷398番地 株式会社半 進体エネルギー研究所内 (72) 空間書 超十 春雨

神奈川県厚木市長谷398番地 株式会社半 選体エネルギー研究所内 (72) 存限者 女会 紹始 神奈川県庫木市長谷398季地 株式会社半 選体エネルギー研究所内

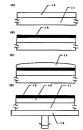
最終百に継く

(54) [発明の名称] 半進体装置およびその作弊方法

(57) [要約]

[目的] 結晶化を助長する触媒元素を用いて、550 ℃程度、4時間程度の加熱机器で終星性註彙を得る方法 において、触媒元素の導入量を排密に制御する。 【構成】 ガラス基板11上に形成された非品質計画館

12上に極薄の酸化膜13を形成し、ニッケル等の触導 元素を10~200pm (要調整) 添加した酵酸塩溶 液等の水溶液14を滴下する。この状態で所定の時間保 搾し、スピナー 15を用いてスピンドライを行なう。そ して、550℃、4時間の加熱処理を行なうことによ り、結晶性珠素膜を得る。上記構成において、溶液中の 触媒元素の濃度を調整することで、完成した結晶性母素 原中における触媒元素の湯库を禁密に制御することがで きる。そしてこの鉄品件荘素師を用いることで、裏い鈴 作を有する半準体位置を扱ることができる。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 結晶性を有する珪素膜を利用して高性値 域が絶縁表面を有する基板上に構成された半導体整置で あって。

前尼活性領域は、非晶質珪素膜に接して鉄旺素膜の結晶 化を助長する触媒元素を溶媒に解かして保持させ、加熱 処理を施すことにより形成されたものであることを特徴

とする半導体装置。 【前求項2】 結晶性を有する珪素膜を利用して活性額 域が絶解表面を有する基板上に構成された半導体装置で 10

あって、 前記括性領域は、非品質是素膜に接して被理素膜の結晶 化を切扱する触媒元素を含む化合物を保持させ、加糖処 理を施すことにより形成されたものであることを特徴と する半導体装備。

「簡求項3」 除求項1または請求項2において、 を販売素として、Ni、Pd、Pt、Cu、As、A u、In、Sn、Pd、Sn、Pd、P、As、Sbか ら選ばれた一種または複数種類の元素が用いられたこと

を特徴とする半導体装置。

【請求項4】 請求項1または請求項2において、

整城元素として、VIII技、IIID族、IVB族、VB族元素から選ばれた一種または複数種類の元素が用いられたこと

を始格とする影響体物質。

を特徴にする干等体後度。 【請求項5】 請求項1または請求項2において、 特性域に形成された半導体接種は、薄膜トランジスタ またはダイオードまたは光センサーであることを特徴と する半導体妨害。

[請求項6] 請求項1または請求項2において、 約記括性層領域中における触媒元素の機度が、1×10 30 "atoms cm-"~1×10"atoms cm-"であることを

特徴とする半導体装置。 【請求項7】 請求項1または請求項2において、 活性無域はP1、PN、N1で示される接合を少なくと も一つ有することを勉強とする半導体体量。

【請求項8】 非晶質珪素膜に接して該非晶質珪素膜の 結晶化を助長する触媒元素単体または前記触媒元素を含 む化合物を保持させ、前記序温度理事膜に前記触媒元素 単体または前記触媒元素を含む化合物が挟した状態にお いて、加熱処理を施し、前記多級原注金媒を納基化ませ いて、加熱処理を施し、前記多級原注金媒を納基化ませ

平体または国に施設に元素を含む化合物が致した状態にお いて、加熱処理を結ら、前起非晶質珪素膜を結晶化させ 40 ることを特徴とする半導体設置作数方法。 【請求項9】 非晶質珪素膜上に波非晶質珪素膜の結晶

化を助長する触媒元素単体を溶解あるいは分散させた路 被を施布する工程と、 助記非基質珪素膜を加熱処理することにより結晶化させ

前記非基質理案膜を加熱処理することにより結晶化さ る工程と、

を有する半導体装置作製方法。 【請求項10】請求項8または請求項9において、 輸送を考として N: Pd Pt C: Ac

放城元素として、Ni、Pd、Pt、Cu、Ag、A

ら選ばれた一種または複数種類の元素が用いられること を特徴とする半導体装置作製方法。

[線束項11] 線求項8または減求項9において、 継継元率として、VIII後、III1後、IV10後、V0後元率か に選ばれた一種またに複数種類の元素が用いられること

ら選ばれた一種または複数種類の元素が用いられること を特徴とする半導体装置作製方法。 【請求項12】非品質旺素要上に該非品質旺素糖の結晶

化を助長する融媒元素を含む化合物を犠牲溶媒に熔解あるいは分散させた溶液を整布する工程と、

るいは対象させた潜浪を至ホする工程と、 前記非晶質珪素膜を加熱処理することにより結晶化させ る工程と、

を有する辛薬体装置作製方法。

[藤求明13] 藤求明12において、様性溶様として、 水、アルコール、微、アンモニア水から選ばれた1つま たは複数が用いられることを特徴とする半導体装置作製 方法。

【請求項14】請求項12において、態度元素としてニッケルを用い、該ニッケルはニッケル化合物として用いられることを特徴とする半導体装置作製方法。

前記容品質理素膜を加熱処理することにより動品化させる工程と、

の工程と、 を有する半導体装置作製方法。

[藤求項17] 藤求項16において、無極性溶媒として、ペンゼン、トルエン、キシレン、四塩化炭素、クロロホルム、エーテルから選ばれた少なくとも一つが用いられることを特徴とする事業体労働件等力法。

[請求項18] 請求項16において、触媒元素としてニッケルを用い、該ニッケルはニッケル化合物として用いられることを特価とする辛嗪体装置作数方法。

(議案項 19] 譲来項 18 において、ニッケル化物を レてニッケルアセチルアセトネート、4 ーシウロ・ヘキン ル発度ニッケル、貸化ニッケル、未業化ニッケル。2 エデル・キナン暦ニッケルの・選ばれた少なくとも 1種 部が用いられることを特徴とする・東本技場で転込力法。 【原本項 2 0 】 京品頁温楽器上に設き品質主業限の結果 化を掲載する機能元業単体を削削されるいな分割させた溶 能に算動活性が変形し、独立を一般である。

前記非贔買珪素膜を加熱処理することにより結晶化させ る工程と、

u. In. Sn. Pd. Sn. Pd. P. As. Sbか 50 を有する半導体装置作製方法。

「請求項21] 結晶性を有する珪素膜を利用して活性額 域が絶縁表面を有する基板上に構成された率導体装置で

あって、 的記品性領域は、非晶質理業膜に接して該理業膜の結晶 化を助長する触性元素を溶媒に解かして選択的に解辞さ せ、加熱処理を施すことにより前紀保持させた領域から その周辺環境へと結晶成長が行われたものであることを

特徴とする半導体装置。 【請求項22】結晶性を有する珪素膜を利用して活性類 域が絶縁表面を有する基板上に構成された半導体装置で 18

あって、 前記括性領域は、非晶質性素限に接して該種素膜の結晶 化を助長する触媒元素を含む化合物を選択的に保持さ せ、加熱処理を施すことにより前記保持させた領域から その周辺環域へと結晶吸炎が行われたものであることを

特徴とする半導体装置。 【発明の詳細な説明】

[0001]

【産業上の利用分野】本発明は結晶性を有する半導体を 用いた半導体装置およびその作製方法に関する。 【0002】

「姓差の投射」類型半導体を用いた薄紙トランジスタ (以下丁ド丁等)が知られている。この丁ド丁は、基板 上に薄膜半導体を形成し、この薄膜半導体を用いて減速 されるものである。この丁ド丁は、各種無難匹比料期 されているが、特性変化学を簡単化プラチェブトリックス型の液晶表示装置の全層重の設けられたスイッチ ング第子、周辺膨胀部分に形成されるドライバー素子と して独自されている。

【0003】下下に利用される採用半導を上しては、30 林長賀建築版を用いることが機能であるが、その電気的 特性が低いたいう問題がある。下下での特性向上を得る ためには、結晶性を有するシリコン機器を利用するばよ い、結晶性を有するシリコン機であるシリコン機では リシリコン、微蛇晶シリコン等と除されている。この結 品性を有するシリコン海を得るためには、まず非温質は 素板を形成したからに生物によっている。

【0004】しかしながら、効果による秘密とは、加熱 組成が600ではしたの選集で10時間としか特別を掛けることが必要であり、基板としてガラス基板を加いるセ ことが必要であり、基板としてガラス基板を加いるセ とが個様であるという問題がある。例えばフライマ型 の機能が示策を採用いられらコーニング7005対方ス はガラス率はが693であり、基板の大調像化を考慮 した場合、600では上の油熱には関連がある。

【0005】 (発明の背景) 本発明者もの研究によれ ば、非晶質建業模の表面にニッケルやパラジウム、さら には鉛等の元素を数量に準模させ、しかる後に脚勝する ことで、550℃、4時間程度の处理時間で結晶化を行 なえることが利明している。 [0005] 上記のような意義な元素 (結晶化を形だする を確認元素) を導入するには、プラスで以近々危難。さ らにはイナンを利用すればよい、プラスで対処性 は、平行平板型あるいは端外比型のプラズでとり投撃 またはれて、電池と口機能であるためが料を用い。ま 素または水素等の雰囲気でプラズでを生じさせることに よって存品質性表膜に触媒元素の原型を行なう方法である。

[0007] しかしながら、上記のような元素が半導体 中に多量に存在していることは、これら半導体を用いた 装置の仮義性や電気的安定性を阻害するものであり好ま しいことではない。

[3003] 即ち、上述のニッケネ等の結晶化を砂ます る元素 (機能で素) は、非晶質比率を結晶化させる際に は多質であるが、結晶化した性素中には様か含まれない ようにすることが望ましい、この目的を達定するには、 総質元素として配合性素やするには、 数様で元素として経過にない。 を選ぶ上回時に、終品化に必要な機能元素の単を地力少 なくし、最低限の更な機能元素の単いを としてそのためには、上記機能元素の原か量を持ちたの で高入する必要がある。

て導入する必要がある。 [0009] また、ニッケルを触媒元素とした場合、非 最質主素膜を成膜し、ニッケル原加とプラズマ処理法に よって行ない結晶性性未膜を作製し、その結晶化過程等 を経際に始せ、カレンスリアの変質が展別した。

を辞細に検討したところ以下の事項が利明した。 (1) プラズマ処理によってニッケルを非品質珪素膜上 に導入した場合、地型型を行なう以前に既に、ニッケル は非品質狂素膜中のかなりの戻さの部分まで侵入してい

る。 (2) 結晶の初期検発生は、ニッケルを導入した表面か 6発生している。

(3) 蒸着法でニッケルを非品質注束膜上に成膜した場合であっても、プラズマ処当を行なった場合と同様に結 品化が起こる。

[0010] 上野年初ら、ブラブで初居によって強み またたニップルがで無例で機能していないということ とが維集される。即ち、多者のニップルが構入されても れたに需視しているとする。 でのことから、ニップルとは実が使している点 そして、「他の2回りの上側ということが表すれているとす。 そして、「他2回りの上側ということが表すれているとなっ のは企業日本のの全部的では他に対している。 のは企業日本の全部的では他というのと 関係で可能と関係と関係というなが、 ということが構造されておいました。 第二人でおいました。 ということが構造されておいました。 第二人でおいました。 ということが構造されておいました。 第二人でおいました。 ということが構造されていました。 第二人でおいました。 ということが構造されていました。 第二人では、 ということが構造されていました。 また、 ということが構造されていました。 ということが構造されていました。 ということが構造されていました。 ということが構造されていました。 ということが構造されていました。 は、 ということが構造されていました。 ということが構造されていました。 ということが構造されていました。 ということが構造されていました。 ということが構造されていました。 ということが構造されていました。 ということが表していることが、 ということが構造されていましていました。 ということが表していました。 ということが表していました。 ということが表していました。 ということが表していました。 ということが表していることが、 ということが、 というにが、 というにが、 というにが、 というとが、 というとが、 というとが、 というとが、 というとが、 というとが、 というとが、 というで、 といるで、 というで、

[0011] 評品質達素膜の表面近傍のみに極微量のニッケルを導入する方法、言い換えるならば、非品質結束 頭の表面近傍のみ結晶化を形成する般態元素を極微量率 入する方法としては、無管法を挙げることができるが、 無着法は制御性が成く、極度子素の導入量を伸胀に削縮

[発明が解決しようとする課題] 本発明は、触様元素を 用いた600℃以下の熱処理による結晶性を有する薄膜 後老生進休の作型において、

(1) 触媒元素の量を制御して導入し、その量を最小限 の量とする.

(2) 生産性の高い方法とする。

といった要求を構たすことを目的とする。 [0013]

【課題を解決するための手段】本発明は、上記目的を満 足するために以下の手段を用いて結晶性を有した珪素膜 を得る。非晶質珪素膜に接して該非晶質珪素膜の結晶化 を助長する触媒元素単体または前記触媒元素を含む化合 物を保持させ、前記非基質許素博に前記触線元素単体主 たは前記骸媒元素を含む化合物が接した状態において、 加熱処理を拠し、前紀非品質珪素膜を結晶化させる。

[0014] 具体的には、触媒元素を含む溶液を非晶質 班索膜表面に塗布し、触媒元素の導入を行なうことによ って、上記構成は実現される。特に本発明においては、 非品質珪素族の表面に接して無媒元素が導入されること が特徴である。このことは、触媒元素の量を制御する上 で緩めて着寒である。

[0015] さらにこの結晶性斑素餌を用いて半導体袋 置のPN、P1、NIその他の電気的接合を少なくとも 1つ有する哲性領域を構成することを特徴とする。半導 体装置としては、薄膜トランジスタ (TFT)、ダイオ

ード、光センサを用いることができる。 【0016】本祭明の構成を採用することによって以下 に示すような基本的な有意性を得ることができる。

(a) 溶液中における触媒元素濃度は、予め厳密に制御 し結晶性をより高めかつその元素の量をより少なくする ことが可能である。

(b) 溶核と非晶質珪素膜の表面とが接触していれば、 触接元素の非品質珪素への導入量は、溶液中における触 提元素の適伴によって決定る。

(c) 非晶質珪素膜の表面に吸着する触媒元素が主に結 品化に寄与することとなるので、必要最小服库の適度で 触媒元素を導入できる。

[0017] 非晶質球素膜上に結晶化を助長する元素を 40 含有させた溶液を能布する方法としては、溶液として水 治液、有機治媒溶液等を用いることができる。 ここで含 有とは、化合物として含ませるという意味と、単に分散 させることにより含ませるという意味との両方を含む。 [0018] 触媒元素を含む溶媒としては、維性溶媒で

ある水、アルコール、酸、アンモニアから異ばれたもの を用いることができる。

【0019】触媒としてニッケルを用い、このニッケル を極性密媒に含ませる場合、ニッケルはニッケル化会物 的には臭化ニッケル、酢酸ニッケル、蓚酸ニッケル、炭 酸ニッケル、塩化ニッケル、沃化ニッケル、硝酸ニッケ ル、硫酸ニッケル、蝴酸ニッケル、ニッケルアセチルア セトネート、4ーシクロヘキシル勘酸ニッケル、酸化ニ ッケル、水酸化ニッケルから選ばれたものが用いられ Z.

【0020】また触媒元素を含む熔媒として、無極性溶 様であるペンゼン、トルエン、キシレン、四塩化炭素、 クロロホルム、エーテルから選ばれたものを用いること 10 ができる。

【0021】この場合はニッケルはニッケル化合物とし て導入される。このニッケル化合物としては代表的に は、ニッケルアセチルアセトネート、2-エチルヘキサ ン酸ニッケルから選ばれたものを用いることができる。 【0022】また触媒元素を含有させた溶液に界面活性 剤を添加することも有用である。これは、核栓を面に対 する密着性を高め吸着性を制御するためである。この界

面括性剤は予め被塗布面上に塗布するのでもよい。 【0023】触媒元素としてニッケル単体を用いる場合 には、酸に溶かして溶液とする必要がある。

【0024】以上述べたのは、触媒元素であるニッケル が完全に溶解した溶液を用いる例であるが、ニッケルが 完全に溶解していなくとも、ニッケル単体あるいはニッ ケルの化合物からなる粉末が分散媒中に均一に分散した エマルジョンの如き材料を用いてもよい。なおこれらの ことは、触媒元素としてニッケル以外の材料を用いた場 合であっても同様である。

【0025】結晶化を助長する触媒元素としてニッケル を用い、このニッケルを含有させる溶液溶媒として水の 如き極性溶症を用いた場合において、非晶質珠実媒にこ れら誘摘を直接他布すると、直接が弾かれてしまうこと がある。この場合は、100人以下の薄い酸化膜をます 形成し、その上に触媒元素を含有させた路被を能布する ことで、均一に施被を整布することができる。また、昇 面紙性剤の如き材料を溶液中に毛加する方法により燃れ を改善する方法も有効である。また、薄い酸化酸を形成 したのち、ラビング処理をおこなって、酸化媒は一定の 開議、幅、方向で同凸を形成してもよい。このような四 凸は熔探の浸透をより一層、促進せしめ、結晶粒の大き さを平均化し、結晶粒の方向を増える上で効果的であ る。また、このように方向性を持たせた結晶性珠素膜を 適切な方向に電流が流れるように半導体素子を形成する と、業子の特性のパラツキを抑制する上で効果的であっ t.

【0026】また、溶液として2-エチルヘキサン酸二 ッケルのトルエン溶液の如き無極性溶媒を用いること で、非晶質珪素膜表面に直接物布することができる。こ の場合にはレジスト他市の際に使用されている宗養剤の 如き材料を予め施布することは有効である。しかし後布 として導入される。このニッケル化合物としては、代表 50 量が多過ぎる場合には逆に非晶質珪素中への触媒元素の

添加を妨害してしまうために注意が必要である。 【0027】溶液に含ませる触媒元素の量は、その溶液

の機類にも依存するが、機能の傾向としてはニッケル量 として溶液に対して200ppm~1ppm、好ましく は350ppm~1ppm(重量検算)とすることが望ま しい。これは、起品化終了後における版中のニッケル를 度や耐っ成性に鑑みて決められる値である。

(0028)また、無販子業を含んだ高速を選択的に整かることにより、最低販売を実施の行なうことができる。 特にこの場合。 接端が増めされたかった関係に向 10 かって、 液体が進せされた機能を引き継の原に関係手 行な力向に始高低低を行な力がことができる。この経業 限の回に関係手行な力的に最高低多が行なわれた環境を 平列接着中においては男内向に指摘成長と人間楽という

こととする。
【0029】またこの様方向に結局成長が行なわれた模様
知は、散経天海の通気が低いことが確からられている。
中等体験は機能実施では、自然自然実施を利用することは有用であるが、活性機関域やしている不検験の 最高度は一般に応い方が対すとしい、従って、上足販売前に 18 総局低級が行なわれた環境を用いて中等体験変の搭性製 報報を形成することはデバイス開発と用いて中等体験変の搭性製

[0030] 木契切においては、触紙元素としてニッケ ルを用いた場合に動し製剤を設定を含ることができるが、その他利用できる触域元素の機変としては、呼まし くはり、Pd、Pt、Cu、Au、Au、In、S n、Pd、Sn、Pd、Pd、R、S bを相同すること ができる。また、WIIが元素、III、ITO、形元素から 風ばれた一様などは複数機能のご乗を利用することもで

【0031】また、触u元素の導入方法は、水溶液やア ルコール等の溶液を用いることに限定されるものではな く、触u元素を含んだ物質を広く用いることができる。 何えば、触u次元素を含んだ金属化合物や酸化物を用いる ことができる。

[0032]

(実施例) (実施例1)

【《 2 3 3】本実施例では、結晶化を助長する触媒元素 を水溶液に含有させて、非品質味素質上に塗布し、しか 40

る後に加熱により粧品化させる例である。 【0034】まず関1を用いて、触嫌元素 (ここではニ ッケルを用いる) を導入するところまでを設明する。本 実施例においては、基板としてコーニング7059ガラ スを用いる。またその大きさは100mm×100mm

[0035]まず、非晶質珪素値をプラズマCVD法や LPCVD法によってアモルファス状のシリコン機を1 00~1500人形成する。ここでは、プラズでCVD 法によって非晶質珪素膜12を1000人の厚さに成態 50 する。(图 1 (A)) [10036] そして、汚れ及び自然酸化膜を取り除くた めにファ酸型原を行い、その接触に膜13を10~50 人に底部する。形力が無限できる場合には、この工程を 必属しても身にことは対うまでもない、既に関13の代 わりに自然酸化膜をそのまま用いれば良い。なお、この 酸化度13は指導のため正単立機関は不明であるが、2 の人間度であるとようわる。ことでは業事別機以下では の人間度であるとようわる。ことでは業事別機以下の

以日本経典であるとかえかれる。ことは欧来井内の中で のUV先の服件はより酸化機 13 を成態する、成債条件 は、酸素界面気中においてUVを5分間照射することに おって行なった。この酸化模 13 の成態力法としては、 熱酸化法を用いるのでもよい。また透酸化水素による処 押によるものでもよい。

[0037] この歌化弾13は、後のニッケルを含んだ 酢酸塩等医療を発生する工程で、非晶質理理膜の表現全体 に酢塩等形成を力能気守むため、即ち連れ他の気度の みのものである。例えば、非晶質症素膜の反型に変核的 整塩溶液を整体に増合、非晶質性素膜の皮質が低化ニッケルを 等入することができない。即り、カーな総線化やドニッケルを 等入することができない。即り、カーな総線化やできない。

とができない。
[0038] つぎに、酢物塩溶液中にニッケルを禁加した
た影残塩溶液を作る。ニッケルの機体は100ppmと
する。そしてこの酢を溶液を非晶を注意[12上の機 を限 30次素原に2m1質下し、この状態を与効性が する。そしてスピナーを用いてスピンドライ(2000 rpm、60秒 を行う。(図 1 (C)、(D))

[0039] 整数游域中におけるニッケルの遺転は、1 ppm以上好ましくは10ppm以上であれば実用にな 0。また、路波として2-エチルヘキサン衛ニッケルの トルエン店後の如き無極性地域を用いる場合、僧化鏡1 3は不質であり、歳戌券昌賀珪美職上に晩賀元素を導入 することができる。

【0040】 このニッケル指摘の他本工座と、195~複 製料的なうことにより、スピンテイ後のお果実施 12の表面に散人~食言人の平均の鎮厚を有するニッケ みを含む層を削減さるとかできる。この場合、この場合 のニッケルがその後の加熱工程において、非品質に自業権 に拡張し、装品化を効果する触覚として作用する。た 3、この層とからのは、完全心臓になっているとは限ら

ない。 【0041】上記修被の塗布の後、5分間その状態を保 終させる。この条券させる時間によっても、最終的に理 楽題12中に含まれるニッケルの濃度を制御することが できるが、最も大きな制御以下は常級の濃度である。 【0042】もして、加熱がしおいて、容単条間低中に

【0042】そして、加熱がにおいて、窒素雰囲気中において550度、4時間の加熱処理を行う。この結果、 素板11上に形成された結晶性を有する注案種膜12を 得ることができる。

【0043】上記の加勢処理は450度以上の温度で行

うことができるが、温度が低いと加熱時間を長くしなけ らばならず、生産効率が低下さ。また、550度以上 とすると基板として用いるガラス基板の耐熱性の問題が 非漏化してしまう。

[0044]本実施例においては、非品質是素觀上に触 協元素を導入する方法を示したが、非品質量素膜下に触 協元素を導入する方法を採用してもよい。この場合は、 非品質性素膜の成膜前に触媒元素を含有した溶液を用い て、予地膜上に触媒元素を導入すればよい。

【0045】 (実施列2) 本実施列は、実施列1に示す 10 作数万法において、1200人の微化主義概を選択的に 設け、この微化注意機をマスクとして選択的にニッケル を導入する例である。

[0046] 図2に本実施における作算工程の概略と ボナ・まず、ガラス基度 (コーング7059、10cm角)上にマスクとなる酸化陸実施21を1000人以 上、こでは1200人の所含に実施する。この酸位型 素線21の原理については、発列音等の実施によると 00人でも同種がないことを接近しており、膜質が蒙古 であれば気に解すても食いと思わせる。

[0041]をして書のフォトリソバターニング工程 によって、必要とするパラーンに数化を提案21 eイー ニングする、そして、産業事業を代こかける原外部の オマリー等のでは、産業事業を代こかける原外部の オマリー等のでは、産業事業を入っているようのでは、 この場合は全土まって行った。よったの機と企業第2 00 mg/s この場合は全業するための機能は要素については、第 変化パラーンのサインを記入を記入を記入されている。 様式パラーンのサインを記入を記入されているとの機能を 様式パラーンのサインを記入されているとの機能を がある。したしているこのは数は対象であり、一般 がある。したしているのとは、対象にあった。一般

約には整位は開催 20を更加した世分が全でする。 ②00451での状態と対象で、実践対しと同様に10 のppmのニッケルを含すした影響電影を多面に関す で501pmで10秒のスピンコートを行い。基度指 を体に用った場合を向えるときないの意で、5 分別な別した様とどナーを用いて2000rpm、80 かのスピンドライを行う、なまごの発明、2ピー上 において0~1501pmの目転をさせながら行なって とおい、(2022)

(10 4 9) 色 1 代 7 5 0 回 (軍車券提致) 、 4 時間の (10 4 9) 色 1 代 7 5 0 回 (軍車券提致) 、 4 時間の 加速処理を終すことにより、非直接延衰 1 2 の機能を から2 3 7 年 2 から2 2 2 の職能 から2 3 7 年 2 から2 2 6 回職 2 4 で 1 2 で 1 10 [0050] 本実務別において、が設備度、保持特別を 変化させることにより、ニッケルが裏接導入された領域 におけるニッケルの濃度と1×10¹ stoss cm¹~1 ×10¹ stoss cm¹の業世 5時間可能であり、同様に 採成長旗袋の遷生をそれ以下に削鮮することが可能であ

[0051] 本実施例で示したような方法によって形成 された結晶珪素膜は、耐フッ酸性が良好であるという特 酸がある。本党明者らによる知見によれば、ニッケルを プラズマ処理で導入し、結晶化させた結晶性珪素膜は、

耐フの燃化水気い。
(10 65 2) 利火は、結晶性及素膜上にゲイト延伸機の 開発矩線として機能する熱化加速解を形成し、ためる 後に機能の製造のために大利が1200mをで、機能を引 をする作業が必要とされた場合がある。このような場 ら、熱化は基準がファファン原によって持会するこの が目底間回される。しかしたがち、結晶性は疾患の細ア 少数がが低いません。使した単等の多を可能とことは 第であり、総品性は疾患をおいたことがと 第一次の、総合性性解をもエッチングしてしまうとい 3 つ 短間がある。

フ川畑から。 【0053】しかしながら、結晶性注棄膜が創フッ酸性 を有している場合、酸化共棄膜と結晶性注棄膜のエンチ ッングレートの違い(選択比)を大きくとることができ るので、酸化注棄膜のみを選択的の除去でき、作製工程 上橋の工事をなものとなる。

【0054】以上述べたように、模方向に結晶が成長した順域は整模元素の適度が小さく、しかも結晶性が良好であるので、この領域を半導件装置の消性策略として用いることは有用である。例えば、存譲トランジスタのチャネル形成開始として利用することは極かて有用であ

る。 (0055) (実施例3) 本実施例は、整様元素である ニッケルを非水溶液であるアルコールに含有させ、容易 異位素膜上に能合する例である。本実施例では、ニッケ ルの化合物としてニッケルアをサルアセトネートを用 い、該化合物をアルコールに含有させる。ニッケルの要 度は必要とする環境になるようにさればよい。

グ州祭祭刊と株文とゲーを用いて2000 грm. 80 (0056) 誰の了就は、実務前1また比埃協例2 に示 かのスとゲラスを行う、なたこの場所は、スピー士 したいて0~150 грmの問題をさせながら行なって 40 ルコール帝族は、非島質注素膜下に他布するのでもよ もよい、(図2 (8)) (2010) 40 (2015) 40 (20

【0057】以下具体的な条件を説明する。まず、ニッケル化合物として、ニッケルアセチルアセトネートを用意する。この物質は、アルコールに可溶であり、分解温度が低いため、終品化工程における加熱の際に容易に分解させることができる。

50 【0058】また、アルコールとしてはエタノールを用

II
いる。まずエタノールに前記のニッケルアセチルアセト ネートをニッケルの景に検算して100ppmになるように調整し、ニッケルを含有した密装を作製する。

【0059】そしてこの治液を非晶質珪素膜上に生むする。なお、非晶質珪素膜は、酸化珪素の下地膜(200 0 A厚)が形成された100mm角のガラス基板上に1 000Aの厚さでプラズマCVD法で形成したものである。

【0060】上記字易質珠素膜上への搭被の機市は、実 施例1千実施例2の水焙液を用いた場合より、少なくで 10 すむ。これは、アルコールの核触角が水のそれよりも小 さいことに忍因する。ここでは、100mm角の面積に 対し、2mlの資下とする。

【0061】そして、この状態で5分間保持する。その 後、スピナーを用い乾燥を行う。この際、スピナーは1 500 rpmで1分間回転させる。この後は、550 て、4時間の加熱を行ない結晶化を行う。こうして結晶 性を有する建本膜を得る。

在を有する地本映を作る。 [0062] (実施例4) 本実施例は、触媒元素である ニッケル単体を酸に溶かし、このニッケル単体が感けた 28 敵を非贔屓投業度上に塗むする例である。

【0063】 本実施別においては、酸として0.1mo 1 / 1の硝酸を用いる。この硝酸の中にニッケルの濃度 が50ppmとなるように、ニッケルの粉末を溶かし、 これを溶液として用いる。この後の工程は、実施例1の 場合と関核である。

(0064) (英語何5) 本実施例は、本発明の方法を 利用して作業した結晶性型素製を用いて、アクティブマ トリックス別の減差表代数値の台類素部分に設けられる 下FTを作製する例を示す。なお、下FTの応用範囲と しては、減高差決接種のみではなく、一般に言われる専 観象機能製に利用できることはいうまでもない。

(日の65] 図3に本実施例の作覧工程の概要を示す。 まずガラス基板上に下地の酸化型無線(図示せず)を2 000人の厚さに成膜する。この酸化型素酸は、ガラス 基板からの不解物の拡散を防ぐために設けられる。

[0066] そして、非晶質量素膜を実施例1と同様な 方法で1000人の厚さに成膜する。そして、自然酸化 硬を取り除くためのフッ酸処理の後、薄い板に概20を 20人程度の厚さに酸素男団気でのUV光の服料によっ 様 才能験する。

【0067】そして10ppmのニッケルを含有した動 電場放送を患水し、5分間保持し、スピナーを用いてス ピンドライを行う。その後パッファフッ酸によって酸化 珪末機20と21を取り除水、550度、4時間の助機 によって、足準膜100を結晶化させる。 (ここまでは 実施別に示した作数方法と同じ)

実施例1に示した作数方法と同じ) 【0068】このニッケルを導入する工程は、実施例3 または実施例4に示した方法によってもよい。例論、ニ ッケルの濃度や保持時間は適時選択すればよい。 12 【0069】次に、総晶化比た建築腰をパターニングして、島状の領域104を形成する。この最大の領域104を形成する。この最大の領域104を形成する。そして、厚さ200~1500人。こごだは1000人の最近日末105を形成する。この微化日来第105を形成する。この微化日来第105を形成する。この微化日来第105を形成する。この微化日来第105を形成する。この微化日来第105を形成する。

【0070】上記職化莊素購105の作弊には注意が必 要である。ここでは、TEOSを原料とし、散素ととも に基板準定150~600℃、好ましくは300~45 0℃で、RFプラズマCVD法で分解・堆積した。TE OSと概素の圧力比は1:1~1:3、また、圧力は 0. 05~0. 5torr, RF/17-1100~25 OWとした。あるいはTEOSを開料としてオゾンガス とともに減圧CVD法もしくは常圧CVD法によって、 某板型度を350~600℃、好ましくは400~55 0℃として形成した。成膜後、酸素もしくはオゾンの雰 関気で400~600℃で30~60分アニールした。 [0071] この状態でKrFエキシマーレーザー(按 長248mm、パルス幅20msec)あるいはそれと 同等な独光を照射することで、シリコン領域104の結 品化を助長さえてもよい。特に、赤外光を用いたRTA (ラピットサーマルアニール) は、ガラス基板を加熱分 ずに、母業のみを選択的に加熱することができ、しかも 珪素と酸化珪素膜との界面における界面準位を減少させ ることができるので、絶縁ゲイト型電界効果半導体装置 の作製においては有用である。

いか来においては4月mである。 【0072】その後、単さ2000人~1μmのアルミ 二ウム酸を電子ビーム悪着法によって形成して、これを パターニングし、ゲイト電報106を形成する。アルミ ニウムにはスカンジウム (Sc) を0.15~0.2 就 量気ドーピングしておいてもよい、次に基板をDHh

7、1~3名の所石酸のエチレングリコール名級に及 し、白金を指揮、このアルミニウムのゲイル機能を指揮 として、振弾組を行う、無環形化は、最初一定域に 22のソまで単正を上げ、その状態で1時所発化して終 7させる。未実施例では定環状態では、電圧の上升速 度は2~5V/分が適当ちる、このようにして、厚さ 1500~3500人、男人ば、2000人の帰境能化 約109を影響でる。(図3(8)1

[0073] その後、イオンドーピング性(プラズマドーピング性ともいう)によって、各下ド下の島状シリコン関中に、ゲイト電極等をマスクとして自己整合の大手を維めている。 純物 (情) を注入した。ドーピングガスとしてはフォス フィン (PH,) を用いた、ドーズ量は、1~4×10 "cm"とする。

【0074】さらに、関3(C)に示すようにKrFエキンマーレーザー(接長248mm、パルス層20ns ec)を競針して、上記不純的類似の導入によって結晶性の劣化した部分の結晶性を改善させる。レーザーのエネルギー密度は150~400mJ/cm'、好ましく 13 は200~250mJ/cm'である。こうして、N型 不純物(機)領域108、109を形成する。これらの 版域のシート送前は200~800月1日から

[0075] この工程において、レーザーを用いるかか りに、フラッシュランプを使用して知時間に1000~ 1200で(シリコンモニターの温度)までよ昇させ、 試料を加熱する、いわゆるRTA (ラピッド・サーマル・ 、アニール) (RTP、ラピット・サーマル・プロセス ともいう)を用いてもよい。

1007名] その後、全面に関係機能等110として、 TEOSを採料として、これを需要とのプラズマCVD 法、もしくはエゲンとの側距でVDはあるいは常度とひ りがによって悪化性表膜を存る3000人形成する。 成環境は250~450℃、例え、350℃とする。 成環境、お面の呼吸性を得るよめ、この酸性無距を機 側がに研修する。さらに、スパック地によって「TO装 観を権用し、これをパターニングして振業を振り11

する。 (図3(D)) [0077] そして、補間絶験物110をエッチングレ て、図1(E)に示すようにTFTのソース/ドレイン 20 にコンタクトホールを形成し、クロムもしくは皇化チタ ンの配稿112、113を形成し、配稿113は編業者 権111に格給させる。

【日11に接続させる。 【0078】プラズで処理を用いてニッケルを導入した 計画性地乗換は、酸化地乗換に比較してパファフッ酸 に対する潜矢性が低いので、上記コンタクトホールの形 成工程において、エッチングされてしまうことが多かっ

た。 【0079】しかし、本実施例のように10ppmの数 譲度で水溶液を用いてニッケルを導入した場合には、耐 20 フッ酸性が高いので、上配コンタクトホールの形成が安 定して再現住よく行なうことができる。

[0080] 無対に、水車やで300~400℃で0. 1~2時間アニールして、シリコンの水産を定すす る。このようにして、下戸すが完定力。そして、時間 に作数した多株のFFTをマトリクス状に原料にしめて、 アクティブマトリクス製造商表示装置として完成する。 この下下は、ソース/ドレイン機対 08/109を テヤネルル環境 114を付している。また115がN 1の電気粉件を含かとなる。

[0081] 本実施例の構成を採用した場合、活性層中 に存在するニッケルの機度は、3×10"cm"程度あ るいはそれ以下の、1×10"atous cm"~3×10 "atous cm"であると考えられる。

(00821 (来当所5) 本実無例においては、実施例 2に示すようにニッケルを選択的に導入し、その部分か 6模方向(各板に平存な方向) 比較品を扱した機能を用 いて電子デバイスを形成する例を示す。このような構成 を採用した場合、デバイスの低性層離域におけるニッケ 機像を含った低くすることができ、デバイスの機能

安定性や信頼性の上から極めて好ましい構成とすること ができる。

【0083】本実施例におけるニッケル元素の導入方法 としては、実施例3、実施例4で示す方法によってもよ

い。
(1084] 本典法例は、アクティブマトリクスの展集 の解析に思いられるアドアの特別に利に対するものであ 、据くは本基地の内が重加を合って、まど、超なり 1 を兼定を明ガスとレブラズマでした日とって持ちょう。 で、プラオでとりかはよって、押さ200~1500 人、例太は100人の成化(1分)の手品数は無数 200人の表現性は、1分のでのような。 フを延載する。大正接触が正常500~2000 人、例太は100人の成化(1分)の手品数は無数 200人の表現を表現される。 アウエマで、 アウエマで、アルスを表現される。 アルスは100人の表現を表現される。 運動がエンテングして、卵品製造物の運出した概実 06を掲載する。

[0085] そして実施例とに示した方法により結晶体 を勤まする整理元するこうマンル元素を含んだ機能 (ここでは前機能流液) 整布する。新蔵市液中における ニッケルの機能は100ppmである。その他、昇転な 工を関係予を条件状態例とでいたものと同一である。 この工程は、実施例3または実施例4に示した方法によ ものであってもよい。

(A) 1 (A) 1 (A) 1 (A) 2 (A)

【0088】その後、100体積%の水蒸気を含む10

MEL 50 0 ~ 60 UTO. RamPictLS 50 UTO所 受けておいて、1979施官することとで、回転編 (保証的・このでは、1979施官では、他なは編集20 0 (保証的・このでは、1979施官では、他なは編集20 0 の形式であ、例では、1970年度では、他なは編集20 0 を形式であって、1970年度では、1970年度をでは、1970年度をでは、1970年度をでは、1970年度をでは、1970年度をでは、1970年度をでは、1970年度をでは、1970年度をでは、197

1 - 10 年の時に「他別人でたね。 (0 0 8 9) 希外の選をしてはハログンランでを用いる。終予の選集と「はハログンランでを用いる。終予の選集は、モニテーの報義をリコンウュートにの選が多のの一12 0 日での同じためるとうご開発する。保持が国産をモニーレーで、これを終予の受死犯がスートドバックをもみ、本発展的では、飛退は、一度で選択 は5 0 - 2 0 0 亿 プレート 原因は自然物をです。0 - 1 0 0 でとす。 と、この参析人間的は、この参析人間的は、と、は、日本のでは、日本の

ることができる。(図4(B)) [0090] 引き扱いて、スパッタリング性によって、 厚さ3000~8000人、例えば6000人のアルミ ニウム(0,01~0,2%のスカンジウムを含む)を

(D)) 【0092】次に、イオンドーピング法(プラズマドー ピング法とも言う)によって、活性層策域(ソース/ド レイン、チャネルを構成する) にゲイト電極部、すなわ ちゲイト電標210とその周囲の酸化層211をマスク として、自己整合的にN導電型を付与する不純物 (ここ 40 では燐)を添加する。ドーピングガスとして、フォスフ イン (PH,) を用い、加速電圧を60~90kV、例 えば80kVとする。ドーズ量は1×1011~8×10 ''cm'、例えば、4×10''cm'とする。この結 果、N型の不純物領域212と213を形成することが できる。図からも明らかなように不算物報域とゲイト報 権とは影響×だけ放れたオフセット状態となる。このよ うなオフセット状態は、特にゲイト電極に遊電圧 (Nチ + ネルTFTの場合はマイナス) を印加した際のリーク **電流 (オフ電流ともいう) を低減する上で有効である。 50**

16 特に、木実施例のようにアクティブマトリクスの関東を 静御するTFTにおいては良好な回像を得るために回来 電極に萎痩された電券が送げないようにリーク電流が低 いことが望まれるので、オフセットを設けることは有効 できる。

100 9.31 その後、レーザー米の影響化エンマブニールを行った、レーザー光としては、Kr Pエキシマレーザー後とよるmm、バルー編2のms ec)を示い 10 乗作は、エネオー=選定が200 でした。レーザー大の開射 10 乗作は、エネオー=選定が200 で、40 mm / ご 10 ショット 外以ば25 ットの とし、一か際しつき 2 ・ 10 ショット 外以ば25 ット サルビルと、20 レーナー大の開酵炉に蒸除を20 0~45 ので確定した時であることによって、30 乗手列 オレン・カント、(個人

(E)] (0 9 4] 続いて、序さ6000人の微化珪本博復 1 4 を簡単経緯をしてプラズヤCVD法によって形式する。8 6 8 に、スピンコーティンが法によって活列なポリスト間を見る。18 を記し、表面を平型化する。このようにして形成された平田上にスパック法によって序 8 6 0 人の力清準を指数 (1 7 位数) を披掘し、これをパケーニングに下海電音を入るを発音を入るを発音を入る。

[0095] モレて、層管総略物214、215にコンタクトホールを放送し、全属材料、例えば、至化デクシンドルミニウムの多層観によって下下の電信・配線 217、2184形成する、悪後に、1気圧の水果等指す るアカライブマトリクスの重素回路を完成する。(図4 (P1)

C ま C 電気が低 ドレビの間 ではり切り とんか。 「00 9 7] また、プラズマC V D 地によって、厚さ5 00 −1 5 0 0 人、例えば10 0 0 0 の 页性 (1 別) の 未起質点無解を観した。そして、送り割10 であしたか 株により 京基斯は素膜の社島化を行なった。そして複素 雰囲気 (大坂田)。 60 0 0 1 m 列の大きさにり、 分一二ングレて、最初の足速間 (T F T の店性別) 5 0 3 を物底した。(日5 (4)) - 1

人ということになる。
(0 0 9 9) 一般に悪化性事故(グイト発展等) と語性
期間対けば解いばと移敗次の出た、オフ電気の勢分と
期間対けば解いばと移敗次の出た、オフ電気の勢分と
いる具体の材料がある。一角、利限の高度は重要
の協品化社やの第分が大きい場とは最高させやすい。した
なの面で有数が存むい場とは最高させやすい。した
なの面で有数が存むしていた。大学明はこの音を等
関盟業務を大切会に、具が自動機能は混乱等によって重要
関盟業務を大切会に、当び自動機能は混乱等によって重要
は、または、この自動を出力では、同節を今の存在
と、さらに、この自動化と払いては、同節を今の存在
のは「他生の実施者」と、自然を記述されては、同節を今の存在
のに、この自動化と払いては、同節を今の存在
のに、自然を必要
のに、自然を認定
のに、自然を認定を認定
のに、自然を認定
のに、自然を認定
のに、自然を認定
のに、自然を認定
のに、自然を認定
のに、自然を認定
のに、自

【0100】熱酸化によって酸化珪素膜504を形成し 30 たのち、基板を一酸化二窒素雰囲気 (1気圧、100 %),600℃で2時間アニールした。(図5 (B)) 引き続いて、減圧CVD法によって、厚さ3000~8 000人、例えば6000人の多数品辞書(0.01~ 0. 2%の情を含む)を成旗した。そして、珪章膜をパ ターニングして、ゲイト電極505を形成した。さら に、この母素媒をマスクとして自己整合的に、イオンド ーピング法 (プラズマドーピング法とも言う) じよっ て、活性層領域(ソース/ドレイン、チャネルを構成す る) にN導電型を付与する不締動 (ここでは個) を添加 40 した。ドーピングガスとして、フォスフィン (PH.) を用い、加速電圧を60~90kV、例えば80kVと した。ドーズ量は1×10"~8×10"cm"、例え ば、5×10" cm"とした。この結果、N型の不締物 復載506と507が形成された。

[0101] その後、レーザー光の照射によってアニール行った。レーザー光としては、KrFエキシマレーザ - (波長248nm、パルス幅20nsec)を用いたが、他のレーザーであってもよい。レーザー光の照射を 件は、エネルギー密度が200~400mJ/cm³、50 解系は2.9 mm J / cm² とし、一か所につき2~10 ・ pa ト、機は2.20 p + 医制した、200 ー ザーズ の無熱性と観覚 2.00~4.5 ので程度に加持すること しょうで、数単を増大しるできたり、(15 (で) 1 「0.10 2.3 また、この工程は、系が外状によるランプ・ した過ぎニールともでもより、派の外域は海頂場構ま のも認識とした選索・は接収されやすく、1000で以 とめ等ニールともの様常・は接収されやすく、1000で以 とめずニールともの様でも必要が、対策、が表帯(連絡が入ればの)へ を記して成立された(1000では、1000では、 カンス構造(連絡)に対し、1000では、 いては最初なりまた。というに、 いては発展なったで、発きののもりへを記されていていて いては発展なったで、発きのもり、発きとのもりへをはまました。 には、またが、発きのもり、発きのもり、発きのもり、発きのもり、発きのもり、 できたは非常の様式

18

8を翻野接替者としてプラズマCVDによって形成した。この周間発酵者としてはポリイミドを利用してもよい。さらにコンタクトホールを形成して、金葉材料、例えば、変化チタンとアルミニウムの多類似によってTFで電客・記載509、510を形成した。最後に、1 気圧の水素質機太マ350で、30分のアニールを行

い、丁子下を使起した。(図5 (D))
[0104] 上記にすが出て呼られたアテつ砂和度
は110-150cm / グレ5、5増は0、2~0、5
は110-150cm / グレ5、5増は0、2~0、5
に対したころ、移転がまたにフィーンス/ド
レインにかの走をドーピングルとデチャネルを下下す。
「毎年以たころ、移転投す90・12 com / グレ5
に対したころ、移転投す90・12 com / グレ5
に対した。インの、6 ゲンデできり、公地のアソロ歩や
にびり回によってゲードを終極を形成した場合に比較した。
また、経機を加からも、未実施のではされた下
下下は10 のじつの温度無難をたよって作覧された下
下下は10 のじつの温度無難をたよって作覧された下

[0105] [実施例8] 本実施例はアクティブマトリ クス型の液晶表示装置に本発明を利用する場合の例を示 。 図6のアクティブマトリクス型の液晶表示装置の一 方の基紙の概要を示した上面図を示す。

[0105] 間において、61はガラスを吹てむり、6 2はマトリフスに異成された囲業前地であり、開業版 地に甘富が米度市の開業が形成されている。この議画の 一つ一つにはスイッテング素子としてTF丁が配置されている。この業産権のアドアを駆けるためのドライ バーTF丁が配置されているこのが用辺ドライバー報道6 2である。高素機能63とドライバー報道62とは男ー 基接61と下一条かされて形成されている。

【0107】ドライバー模雑62に配置されるTFTは 大電波を流す必要があり、高)移動度が必要とされる。 また、顕素類雑63に配置されるTFTは回素電極の電 毎を保持率を図める必要があるので、オフ電池(リーク 電流)が少ない特性が必要とされる。例えば、囲素領域 63に配置されるTPTは、実施例5に示すTFTを用

いることができる。 [0108] [実施例9] 本実施例は、実施例1に示す 作製力法において、酢酸ニッケル水溶液を塗布する工程 の前に、酸化珪素膜表面にラビング処理をおこなうこと によって、旅館化荘楽精表面に微観な振り係を形成し、 ある一定の方向、幅、関係をもたせて非暴質珪素膜に二 ッケルを導入する例である。

[0109] まず、基板 (コーニング7059) 上に下 地膜としてスパッタリング法によって酸化珪素膜を20 10 00人形成した。そして、非晶質珪素膜をプラズマCV D法によって300~800A、例えば、500Aに成 膜した。そして、汚れおよび自然酸化膜をを取り除くた めにフッ酸処理をおこない、その後、酸素雰囲気中にお いてUV光の照射をおこない、10~100人の酸化珪 素膜を形成した。このとき、過酸化水素による処理や熱 酸化によって酸化珪素膜を形成してもかまわない。

[0110] 微化珠素顕形成後、微化珠素膜表面にラビ ング処理をおこない、図7 (A) のように微細な振り係 を膜表面に形成した。このラビング処理は、ダイヤモン 20 ドペーストを用いておこなったが、躺布、ラパー等にお いても可能である。ここで、接り係が一定の方向、幅、 間隔となることが好ましい。

【0111】以上のように譲表面に抜り集による凹凸を 形成した後、実施例1と同様にスピンコーティング法に よって酢酸ニッケルの膜を形成した。このとき、先の工 程で形成した振り傷の凹部分に、酢酸ニッケル水溶液が 一様にしみ込んでいる。

[0112]その後、実施例1と同様に加熱炉におい て、資業界囲気中で550℃、4時間の加熱処理をおこ 30 なった。この結果、結晶性を有する珪素膜(結晶性珪素 横) を得ることができた。本実施例においては、酸化珪 **素厚にラビング処理を施すことによって、非品質証素簿** に対して、一定の方向、幅、間隔を持たせてニッケルを 導入したため、図7 (B) の如く、この結晶性珪素膜 は、結晶粒界の方向、大きさがある程度そろったものが 得られた。すなわち、長方形もしくは楕円形のように、 一方向に長い結晶粒が多く得られた。 図7 (B) におい ては、結晶の形状が楕円形であるように書かれている が、それ以外の形状の結晶も同時に得られた。結晶粒の 40 長手方向は横略、ラビングの方向であった。

【0 1 1 3】凹凸の幅、間隔はラピングの時間、ダイヤ モンドベーストの密度等を変化させて萎縮となるように すればよい。ただし、脳器鏡観察では明確に緩や振荡を 測定できないので、得られる結晶性理素膜の結晶粒の大 きさや非晶質理素残りの密度等が最適になるように条件 を決定した。本実施例では、非品質許潔の残り (未輸品 化領域) の大きさ (長径) が1 μm以下、好ましくは、 3 μm以下となるようにした。

酢酸ニッケルを塗布し、結晶化をおこなった場合におい ては、ニッケルのしみ込みが一様でなく、結晶化が一様 におこなわれず、1~10μm程度の大きさの円形の未 粧品化価域が見られた。しかし、本実施例においては、 このような未結晶化額域の個数は格段に少なくなり、ま た、その大きさも小さくできた。

【0115】 (実施例10) 本実施例は、実施例9で作 製した結晶性珪素膜を用いて国来TFTを作製した例で ある。図8に本実施例の作製工程を示す。まず、基板8 01 (コーニング7059、10cm角) 上に、下地膜 として酸化珪素膜802をプラズマCVD法によって3 000Aに成職した。そして、プラズマCVD独によっ て非異質計算課を300~1000Å、例えば、500 Aに成膜した。

【0116】その後、実施例9と同様に、非晶質辞素算 状に酸化珪素膜を形成し、ラビング処理を施し、スピン コーティング独によって新微ニッケル旗を形成した。そ して、窒素雰囲気中において、550℃、4時間の加熱 処理を施し、結晶化せしめた。結晶は一方向に長いもの が多かった。

【0117】その後、更に結晶性を向上させるためにレ 一ザー光を振射した。このとき、KrPエキシマレーザ 一光 (被長248nm) を200~350mJ/cm¹ で照射することによって、さらに、良好な結晶性母素媒 803が得られた。また、この結果、僅かに存在してい た未結晶化板域は完全に結晶化された。(図8(A)) 【0118】 つぎに、この様にして得られた結晶性珪素 顕803をパターニングして、島状の領域804(島状 珪素膜) を形成した。この島状の領域を形成する際、図 9 (A) 、 (B) の様に結晶粒界に対して、垂直方向と 平行方向の二適りとることができる。

【0119】このとき、TFTを流れる電流は効果を機 切る際、粒界の抵抗が大きい。また、粒界にそっては電 流が流れやすい。このため、チャネル領域に含まれる粒 界の数およびその方向によって、TFTのリーク電流 (ゲイト電極に逆パイアス電圧を印加した状盤でのドレ イン電流。例えば、Nチャネル型TFTの場合には、ゲ イト電極に負の電圧を印加した状態でのドレイン電圧) は大きな影響を受ける。特に、複数のTFTが存在する 場合、各丁PTのチャネル内に存在する結晶(粒界)数 や方向が大きくばらつくと、リーク電流のバラツキの原

図となる。 【0120】これは、結晶的の大きさがチャネルの大き さと同程度、もしくはそれ以下となった場合に大きな問 題となる。チャネルが結晶粒に比べて十分に大きな場合 には、このようなパラツキは平均化されてしまい、現象 として観測されない。例えば、チャネル内に粒界が1つ 存在するかしないか、という状況では、粒界が存在した い場合には単結品のTFTと同じ特性が期待できる。-【0114】実施例1のようにラピング処理を施さずに 50 方、粒界がドレイン電流に平行に存在する場合には、リ

一ク電流が大きくなる。逆に、粒界がドレイン電流に直 角に存在する場合には、リーケ電波が小さくなる。 【0121】本実施例では、結晶はラピング方向に長細 く成長するので、ドレイン電流が流れる方向をその方向 に対して、平行にとった場合 (図9 (A)) には、チャ ネル領域内に存在する粒界 (結晶) の数が平均化されに くく、リーク電流がばらつきやすい。しかも、振して、 ドレイン電法の方向が約界の方向であるので、リーク電 流が大きい。一方、図9 (B) のように垂直にとった場 合、本発明においては、結晶粒901の幅がほぼ一定で 10 あるため、チャネル領域902内に存在する数据903 の数がほぼ等しく、安定した1... が期待できる。 敬 に、図9 (B) のように島状珠素膜8 0 4 はドレイン電 流が流れる方向が粒界方向に対して垂直となる方向 (す なわち、ラビング方向に機略垂直) に形成するとよい。 この島状珠素膜804はTFTの活性順を形成する。 【0122】本実施例では、上記以外にも、ラピング値

理を施すことによる結晶粒の平均化による降下もあっ た。例えば、結晶粒の大きさが大きく変動すると、チャ ネルに存在しうる結晶の数に大きな変動が生じるので、 特にリーク電流のパラツキの原因となった。実施例1の 場合には、ニッケルの拡散が不均一であったので結晶粒 の大きさはまちまちとなることがあり、また、10 mm 以上の大きな未結晶化領域はレーザー照射によって結晶 化しても結晶性が著しく劣った。 【0123】しかしながら、本実施例のようにラピング

処理をおこなうと結晶の大きさは比較的、揃ったものと なり、また、未納品化領域はレーザー開射によって納品 化される際に、近傍の結晶の影響を強く受けてエピタキ シャル的な成長をおこなうため、良好な結晶性を示し た。このようにラピング処理を被すことによる効果が見 られた。つぎに、ゲイト絶縁膜805として、膜厚20 0~1500Å、例えば、1000人の酸化珪素膜をブ ラズマCVD法によって形成した。

[0124] その後、厚さ1000Å~3 mm、例え ば、5000Åのアルミニウム (1wt%のS1,もし くは0.1~0.3wt%のScを含む)膜をスパッタ リング法によって成隊して、これをパターニングして、 ゲイト電極806を形成した。つぎに基板をpH=7。 1~3%の循石酸のエチレングリコール溶液に浸し、白 40 金を除植、アルミニウムのゲイト重複806を隠極とし て、陽極酸化をおこなった。陽極酸化は、最初一定電流 で220 Vまで電圧を上げ、その状態で1時間保持して 終了させた。このようにして、厚き1500~3500 A、例えば、2000Aの陽極度化物807を影成し た。(図8(B))

【0125】その後、イオンドーピング法によって、鳥 状珪素模804に、ゲイト電極806をマスクとして自 己整合的に不締物を注入した。ここでは、ジボラン (B : H.) をドーピングガスとして磁素を住入して、P型 50 11・・・・ガラス基板

不純物領域808を形成した。この場合、磁素のドーズ 最は4~10×1010cm-1、加速電圧を65kVとし t. (M8 (C))

【0126】さらに、KrFエキシマレーザー(被長2 48 nm, パルス幅20 nsec) を照射して、ドービ ングされた不断物質被808の折性化をおこなった。レ ーザーのエネルギー密度は200~400mJ/c m¹ 、好ましくは250~300mJ/cm¹ が適当で

あった。つぎに、層間絶縁襞809として、プラズマC VD法によって酸化珪素膜を厚さ3000人に成膜し

【0127】そして、層間絶縁襲809、ゲイト絶縁膜 805のエッチングをおこない、ソースにコンタクトホ ールを形成した。その後、アルミニウム膜をスパッタリ ング法によって形成し、パターニングしてソース電極8 10を形成した。(図8(D))

[0128] 最後に、パッシベーション庫811として 押さ2000~6000Å、例えば、3000人の定化 珪素膜をプラズマCVD独によって形成し、これと層間 絶縁魔809、ゲイト絶縁隊805をエッチングして、 ドレインに対してコンタクトホールを形成した。そし て、インディウム鋸骸化物膜(ITO膜)を形成し、こ れをエッチングして、国素電視812を形成した。(図

8 (E)) 以上のようにして、画業TFTが形成された。

[0129] 【効果】触媒元素を導入して低温で短時間で結晶化させ た結晶性珪素膜を用いて、半導体装置を作製すること で、生産性が高く、特性のよいデバイスを得ることがで

30 සිර. 【関語の簡単な説明】

【図1】 定額例のT段を示す [日2]

実施例の工程を示す。 【図3】 消瘡中のニッケル海岸と樹方向への訪品成長

距離との関係を示す。 【図4】 実施例の作製工程を示す。

[図5] 実施例の作製工程を示す。 [846] 宝箔例の構成を示す。

[587] 実施例の結晶成長について示す。 【図8】 実施例の作製工程を示す。

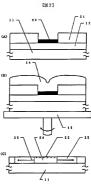
【関9】 事務例のTFTの活件層の配置を示す。 【辞号の終明】

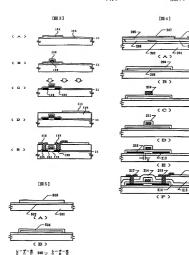
11・・・・ガラス基板 12・・・・非易質辞素機

13・・・ 離化母素論 14・・・・ニッケルを含有した酢酸溶液膜

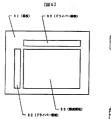
15・・・・ズピナー

21・・・・マスク用酸化异素媒 20・・・・ 酸化珪素膜



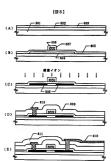


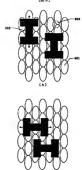
(D)











フロントページの続き

(31) lat.CL.* 業別記号 介件製電器号 FI 技術表示後所 HO LL 21/26 11/268 2 27/12 R

(72)発明者 張 宏勇

神奈川県厚木市長谷398番地 株式会社半 導体エネルギー研究所内

...